

サポセン和歌山

更生保護サポセンとセンター和歌山
〒640-8157 和歌山市八番丁4 八番丁館3階

第43号

発行責任者：和歌山保護司会会長
編集：企画調整保護司
TEL：073-460-9298
FAX：073-425-1301
E-mail：saposen_w@ares.eonet.ne.jp

テレビ和歌山に「黄色い羽根」の依頼

「社会を明るくする運動」の月間を控え6月30日 観察所長、会長、犯罪予防部長等総勢7名でテレビ和歌山を訪問しました。

「社会を明るくする運動」の趣旨、歴史、現在の保護司活動等について話し、7月の強調月間の間、ニュースキャスターに黄色い羽根を付けて出演して頂けないかとお願ひしたところ、快く承諾して頂きました。

7月1日「6Wakaライブニング」で黄色い羽根をつけたキャスターによって、内閣総理大臣メッセージ伝達式の様子と黄色い羽根や「社会を明るくする運動」の由来が放映されました。

「黄色い羽根」「幸せの黄色い羽根」

「社会を明るくする運動」のシンボル（黄色がシンボルカラー）で長崎地区の保護司会が発案し全国に広がる。

「社会を明るくする運動」なぜ7月？

昭和24年7月1日「犯罪者予防更生予防更生法」が施行。これを機に戦後の荒廃した中にかねてから街にあふれた子供達の将来を危惧した東京銀座商店街の有志がこの法律の思想に共鳴し、昭和26年7月に一週間にわたって「犯罪者予防更生法実施記念フェア（銀座フェア）」が開催されました。

この啓発運動が「社会を明るくする運動」と名付けられ国民運動として広げられるきっかけとなっています。

社会を明るくする運動



コロナ禍で苦戦

毎年恒例の「社会を明るくする運動」も、今年で70回目の節目を迎えた。今年も新型コロナウイルスの感染拡大で、例年の和歌山駅頭の啓発グッズの対面配布は困難であると判断されて中止となりました。

同様に東西南北の各支部でも思うように活動に取り組みませんでした。こうした状況下でこそ、お互いが助け合い力を合わせて乗り越えていきたいものです。一方、のぼり旗やポスター掲示に精力的に取り組みました。

「社会を明るくする大使」に任命された桂枝曾丸さんがキャラバン隊長として出演されたNHK「ギョギョッと和歌山」では「いろいろな種類のペンギンがひとつのエリアで仲良く暮らしている姿がこの運動にぴったりです」と話されました。

ペンギンは「飛行《非行》」をしないことから「更生ペンギン」としてマスコットキャラクターとなっており、アドベンチャーワールドの「ペンギン王国」にハート形の氷を贈り運動への協力を求めました。

また、白浜アドベンチャーワールドの中尾建子副園長も「ペンギンのよう

に助け合って尊重し合って生きる世の中になって欲しい」、「今は人と人がお互いに距離を取り三密を避ける生活ですが、こういう時こそ横のつながり人の心をしっかりとつなぐことが大事だと訴えていきたい」と話されていました。

お二人の言葉に勇気をもらい、今後も保護司の皆様のできる限りの広報活動をよろしくお願ひします。



内閣総理大臣メッセージ伝達式



和歌山市役所玄関に「社明」横断幕掲示



横断幕取り外し作業



社会を明るくする運動支部活動

南支部活動報告

6月30日、南支部和歌浦地区保護司数名は、和歌浦支所に集合し、田中支所長に社会を明るくする月間活動の一環として、ポスター掲示と、のぼり旗を数本立てる事をお願いした。

そして、その足で和歌浦交番へ出かけ、社明の話をした。交番のおまわりさんも協力を約束してくれ、交番入口の右側に、のぼり旗を立ててくれる事を依頼して帰って来た。

杉谷 睦生 記



のぼり旗設置
和歌浦支所



北支部 社明啓発のご挨拶
パームシティ



東支部 “社明”グッズ作成作業
サポートセンター和歌山



西支部 のぼり旗設置 中之島連絡所

学校訪問（作文コンテスト依頼）

コロナ禍の対応で大変な和歌浦小学校へ地区の保護司数名で伺った。

校長先生が校長室へ招き入れてくれ、懇談を行った。

7月は「社会を明るくする運動」月間であり、子供達の行事として、「社会を明るくする」事についての作文を書いて欲しい事などを伝えた。学校も今、コロナ禍で大変な時ではあるが、お願いをして、募集要項とポスターを渡した。

その後は、天神祭りの補導をはじめ、学校に保護司として協力出来る事などについて話をし、おいとまをした。学校と踏み込んだ話し合いができたことはとても有難い事であった。

筒井 満 記



北支部 松江小学校訪問 作文コンテスト依頼

第70回社明作文一次審査会

9月17日、午前10時〜午後4時まで県民文化会館3階会議室にて、「第70回社会を明るくする運動」の作文第一次審査会が開催されました。

本年度は、コロナ禍により参加作品が例年通り寄せられるか関係者一同心配していましたが、ふたを開けてみると小学校は11校271作品、中学校は12校1070作品の応募があり、関係者一同胸を撫で下ろしました。

こうしたたくさんの方の作品応募があったのも、各校の先生方の御指導の賜であり、保護司の方々が作文依頼に熱心に学校訪問等をされた結果だと感謝しています。

審査当日には西岡和歌山保護観察所長の激励訪問と差し入れに、審査員の皆さんも大喜びで、無事第一次審査を終えました。東西南北各支部代表・更生保護女性会・BBS代表・保護司会役員の皆様お疲れさまでした。



和歌山保護司会 合同事務担当者協議会開催

本年度の事務担当者会議は「コロナ禍」の三密を回避するため、サポートセンター和歌山で7月14日、17日の2回に分け飯田会計係長の出席の下、開催されました。

4支部事務担当者の皆さんも熱心に質疑応答の協議に研鑽を重ねました。

主な保護司活動の区分として地域活動推進への実費弁償される経費があります。(保護司実費弁償金支給規則)具体的な内容は会議開催に係る経費や「社明運動」における啓発グッズ購入、のぼり旗購入費等への支給対象となる活動費請求について、事務担当者よりコロナ禍における活動形態も、今年は従来とは異なり例を見ない行事等もあり、突っ込んだ質問が出て、担当官よりそれに対する請求方法等を詳細に説明をしていただきました。

今回の研修も組織運営を担う事務担当者として円滑な更生保護活動が推進できますようにとの研鑽の場がありました。

事務局長 角田 秀樹 記



7月14日 (東・西支部)



7月17日 (北・南支部)



質疑応答の時間でも、様々な活動事例に対して詳しく説明して下さいました 保護観察所の飯田会計係長

社会貢献活動

東支部の有志の保護司の皆さんがボランティアでマスクを手作りして児童養護施設にプレゼントをされています。

各施設から心温まるお礼のお手紙が届いています。ここにほんの一部ですが掲載させていただきます。

更生保護サポートセンター和歌山 様
拝啓

梅雨の候、雨上がりの新緑が目にしみる頃となりましたが、更生保護サポートセンター和歌山様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は当学園に温かいご理解ご支援をいただきましてありがとうございます。さて、先日はたくさんの手作りマスクをご寄贈くださりありがとうございます。マスク着用で登校しなければならなかったため、毎日たくさんマスクが必要となりますので、とても助かります。特に小学生はすぐに汚れて帰ってきますので、洗い替えが必要となるので本当に嬉しいです。

この度のお心遣い本当にありがとうございます。天候不順のみぎり、御身ご自愛くださいますようお願い申し上げます。粗書ですが、お礼に代えさせていただきます。

敬具

令和2年6月30日

和歌山市旭学園
施設長 里 裕子



東支部有志の皆さん

たくさんの可愛いマスクを作って頂きお疲れ様です。これからも引き続きお願いします。



初夏の候、この度、子供たちの為にマスクを頂きありがとうございます。子供たちも学校が始まり笑顔で登校する事が出来ています。マスクも毎日つけての生活となっておりますのでとてもありがたいです。

令和2年6月15日

和歌山市こばと学園
施設長 山本 真

第一期地域別定例研修

題目「転居・旅行について」

当日は、新型コロナウイルス感染症対策として、受付時の体温測定、手指のアルコール消毒、全員のマスク着用をお願いし、受講者間も会場の許す限りの距離を取って、講師前には手製のビニール製の衝立を置いての研修となりました。

コロナ感染第二波の前であったことから、自主研修会を開催し、コロナ禍における対象者との面接時の課題などを話し合った支部もありました。



北支部 8月24日
河北コミュニティセンター



東支部 7月21日
和歌山北コミュニティセンター



西支部 7月27日
和歌山保護観察所



南支部 7月27日
紀三井寺はやし

お知らせ

※所属支部の研修日に都合がつかず出席できない方は、事前に支部長に申し出て、他支部の地域別定例研修に参加をお願いします。

第2期地域別定例研修	
東支部	令和2年12月3日(木)
西支部	令和2年11月16日(月)
南支部	令和2年11月26日(木)
北支部	令和2年10月19日(月)

*詳細は各支部の連絡等でご確認ください

「新任さんいらっしやい」の日程

開催日	
第1回	令和2年9月25日(金)
第2回	令和2年10月23日(金)
第3回	令和2年11月13日(金)

*研修時間は、各回とも午前10時から12時まで

和歌山県更生保護顕彰大会

10月29日(木)
ホテルグランヴィア和歌山

編集後記

今月号から題字を編集委員の中谷節子氏の味のある毛筆に変更してみました。が、いかがでしょうか？

皆さまに愛される、より良い和歌山サポートセンター広報誌となりますように、林吉男編集長を中心に喧々諤々の意見を出し合いながら、毎月楽しく編集委員会を開いています。

皆さまからの情報や投稿をお待ちしています。

(S・N)



和歌山サポートセンター 俳句教室作品

ふる里や青田万畳風わたる
庭光や昨夜のさわぎの花火の香
初生の胡瓜くの字に曲がりけり
夕映えや金色世界ねこじやらし
夏服の児らは揃ひのマスクかな
来客の遅し打水緑り返す
豊み目より日差漏れくる古日傘
鴉の子朝のあいさつ仰ぐし

選者「森 幸子」

森 幸子
小西 健之
乾 三千代
得津 壽美代
中村 咲子
乙井 八重子
大竹 有美
杉谷 睦生



新任・OB・OGのみなさん
参加大歓迎！！

日時：毎月第3水曜日
10時～

対象：更生保護関係